

第1回羽幌町総合教育会議 議事録

1 開催日時及び場所

- (1) 日 時 平成28年11月28日(月)16時00分から16時50分まで
- (2) 場 所 羽幌町役場2階 幹部会議室

2 出席者及び欠席者の氏名

【委員】

(1) 出席者

羽 幌 町 町 長	駒 井 久 晃
〃 副 町 長	江 良 貢
羽幌町教育委員会 教育委員長	森 弘 子
〃 委員長職務代理	松 田 肇
〃 教育委員	佐 藤 善 昭
〃 教育委員	米 谷 日登美
〃 教 育 長	山 口 芳 徳

(2) 欠席者

なし

【関係職員出席者】

羽幌町教育委員会	学校管理課長	春日井 征 輝
〃	社会教育課長	渡 辺 博 樹
羽幌町	地域振興課長	酒 井 峰 高

3 傍聴者

なし

4 議題

- (1) 教育行政に係る情報提供と意見交換
 - ア 学力テストに係る情報交換
 - イ 児童・生徒の問題行動の状況
 - ウ コミュニティスクール事業の実施
- (2) その他

5 会議の内容

別紙のとおり

【会議の内容】

1 開会（酒井地域振興課長）

省略

2 町長挨拶（駒井町長）

省略

3 議題

(1) 教育行政に係る情報提供と意見交換

ア 学力テストの結果

資料1に基づき下記のとおり説明（春日井学校管理課長）

（発言要旨）

学力テスト等の目的は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握及び分析し成果や課題を検証の上、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるもので、町内の小学6年生、中学3年生が調査の対象となっている。

教科に関する調査結果について、小学校では、国語Aの平均正答率が全国平均を下回り、全道平均と同程度（前年度は全道及び全国平均より下）、国語Bは、全道及び全国平均を下回り（前年度は全道及び全国平均より上）、算数Aは、全国平均を下回ったものの全道平均を上回り（前年度は全道及び全国平均より下）、算数Bは、全国平均を下回ったものの全道平均を上回っている（前年度は全道及び全国平均より下）。中学校では、国語Aの平均正答率は、全道及び全国平均を下回り（前年度も全道及び全国平均より下）、国語Bも全道及び全国平均を下回り（前年度は全道及び全国平均より上）、数学Aは、全道平均を上回り、全国平均と同程度（前年度は全道及び全国平均より下）、数学Bは、全道及び全国平均を上回っている（前年度は全道及び全国平均より下）。

児童生徒に関する調査について、全道及び全国平均と比較すると、小学生の主な傾向として、一日の生活の中で「テレビ、ビデオ、DVDを見たり聞いたりする時間」「テレビゲーム等をする時間」「携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている時間」が多い傾向あり、「学校の授業時間以外に一日当たりに勉強する時間」が少ない傾向にある。また、中学生の主な傾向として、「テレビ、ビデオ、DVDを見たり聞いたりする時間」「テレビゲーム等をする時間」は全道・全国平均と比較して大きく変わりはないものの、「携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている時間」が多い傾向あり、「学校の授業時間以外に一日当たりに勉強する時間」が少ない傾向にある。

学校に関する調査について、全道及び全国と比較すると、小学校では、「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた。」「算数の指導として補充的な学習指導を行った。」割合が高い傾向にあり、中学校では、「全国学力・学習状況調査の分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した。」「数学の指導として補充的な学習の指導を行った。」割合が高い傾向にある。

まとめとして、教科に関する調査結果では、全体的に他地域との差が減少傾向にあり、各学校での取組の成果が表れた状況となっている。これは学力向上に関する取組の中で、朝学習や朝読書などの実施、学習規律の徹底、授業の終末の工夫などの実践によるものと思われる。この他、学校授業以外での勉強時間が少ない傾向にあるものの、「家庭学習のすすめ」の配布や「生活リズムチェックシート」などの活用による生活習慣の改善など、保護者への働きかけの成果が見られている。

【意見、質問及び回答】

○小学生の携帯電話所有率は？

→8割でほとんどが高学年である。全道と比較しても高い率である。

○ゲームや携帯電話を使うことで生活のリズムが狂うため、中学校では携帯電話の使用時刻を21時30分までと指導している。

○学力テストの結果は、全国平均との差が年々縮まっており、学校と家庭の連携による成果が表れている。

イ 児童・生徒の問題行動の状況について

口頭により下記のとおり説明（春日井学校管理課長）

（発言要旨）

平成27年度の調査結果として、いじめや体罰とされる認知件数はなく、不登校の傾向にある生徒が若干名いる。また、ネットパトロールとして、道教委が委託業者に依頼し調査した結果、インターネット上で本町の学校や部活動の名称が発見されたものの既に削除している。

【意見、質問及び回答】

○この問題は、命に関わるもので気を付けて対応しなければならない。

○町の子育て施策として、育児に係る手助けや団塊の世代を生かす仕組みづくりを検討している。助言等をいただければと考えている。

ウ コミュニティスクール事業の実施について

資料2に基づき下記のとおり説明（春日井学校管理課長）

（発言要旨）

現在は、学校評議員制度や学校評価により、地域住民の学校運営への参画、学校・家庭・地域連携による学校づくりが行われているが、これから

は、これらの仕組みを発展させ、更に多くの地域住民や保護者が関わり、地域が一緒になり学校運営を行っていく仕組みを「コミュニティスクール」として作り上げていくものである。なお、この取組に当たっては、教育委員会が学校運営協議会規則を作成し、同協議会を置く学校を指定することとなる。教育委員会では、平成 29 年度に 1 校をモデル校として指定し、取組を通じ課題等を整理しながら、最終的には町内全校を指定させたい考えである。

【意見、質問及び回答】

○協議会の中心となるのは誰か？

→学校長である。

○全国的な取組になるのか？

→国の教育再生会議で努力義務となっているが、全国的な取組に乗り遅れるわけにはいかないと考えている。

○モンスターペアレントに対し、学校だけでは対応仕切れないケースがあることも考えられるが、地域住民が多く参画することで一般的な目線で対応できることにもなる。

(2) その他

特になし。

4 閉会（酒井地域振興課長）

省略